

市議団ニュース

NO. 1793
16.04.10
日本共産党根室市議団
宝林町4-203
電話23-6023
FAX24-1684

流し網禁止元年

不安広がる地域経済の先行き

2015年、根室の水産水揚げ量は、約7万8千トンとなりました。これは、例年10万トンから11万トンで推移してきた地域経済にとって深刻なものとなりました。日ロサケマス交渉で大型船がロシア海域に出漁できず、サンマの水揚げ量も6万3千トンと減少した結果でしたが、ロシア海域でのサケマス流し網禁止元年となる2016年の水産水揚げ量がどの様になるのか、地域経済の推移が心配されています。

縮小する地域経済

リードで述べた通り、昨年の水産水揚げ量は、ロシア海域でのサケマス漁の水揚げがいわゆる小型船による約1カ月の操業水揚げしかなく、サンマ漁も2012年対比で2万トン近く減少するなど、水産水揚げ全体で7万3千トン余となりました。

地域経済では、漁業関係は、もちろんのこと、サケマス漁業に直接関連していた魚の箱をつくる業種が廃業するなど関連産業では大きく仕事量が減少となっています。これまでに少なくとも10万トンの漁獲量を確保し、地域経済を



花咲港のサンマの水揚げ風景（根室市ホームページより）

支えていた漁業基盤が大きく揺らいでいます。いま根室市は、地域経済の縮小に歯止めのかからない現況に置かれています。

心配される漁獲量

流し網禁止対策として国は100億円を超える予算を計上しました。厚岸町では、これまで取り組んでいた大規模なカキ養殖事業へ国から100%の予算がつくなどその対策が順調に進んでいるとの報道がされています。

根室市はどうでしょうか。地理的にも根室半島は養殖事業には限界があるのは周知のとおりです。いま期待をかけているのが、根室湾側の新ホタテ漁場整備です。目標値は、1万5千トン・漁獲金額で30億円を2020年度か2021年度からの水揚げを見込んでいます。2016年度約2億8千万円で漁場調査と底質改善を行います。しかし、これが計画通り進むのか先の見通しは決して楽観できる状

況ではありません。

特に、「代替え漁業」が地元への水揚げができるものにはならないと考えられ、秋のサンマ漁などの水揚げがどのような状況になるのか、春先の沿岸漁業の水揚げもかなり厳しい環境にあることから今年の水産水揚げ量に対する不安と心配がいまマチに広がっています。

代替え漁法・漁業は？

代替え漁法や代替え漁業は、次のようなものが実施されると言われています。それは、ロシア海域での代替え漁法によるサケマスの水揚げと公海サンマ漁、小型漁船によるサバ、イワシ漁などです。

すでに新聞報道されている様に、ロシア海域でのサケマスの代替え漁法として有力とされるのが二漕艇引きでのサケマス漁です。この漁業でいわゆる「北洋ベニザケ」が花咲港に水揚げされることに大いに期待をかけたもの

です。しかし、これとこれから始まる対口交渉がどうなるのか、先ずは試験操業が始まったとして、その後の諸々のことが予測できる状況ではありません。

公海上のサンマ漁は、元々秋のサンマ漁への影響（資源的にも、価格への影響など）に不安もあり、さらには地元への水揚げがされないため、関連産業への波及効果はほとんど期待できません。

5月から90日間操業できるとされているサバ、イワシ漁については、この時期に十勝の襟裳（えりも）の先と言つ遠い漁場にこの時期サバやイワシの漁業ができるのか「全く見通しのない操業になる」と漁業者は不安をかくせません。

これらの代替え漁業は、100%の国費によるものとはならず、諸々の経費の内3分の2が国費、残り3分の1は漁業者の負担となるとされています。

また、100億円予算化されたものが今年残ると来年度以降も代替え漁業で使えるのかなど不安感が払しょくされない中で船出することになりそうです。